



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



「笑顔絶やさぬ司祭になる」と抱負

李秉徳さん5人目の韓国籍教区司祭に

教区における5人目の韓国籍鹿兒島教区司祭が9月23日(土)誕生した。叙階式会場のザビエル教会には、韓国からの50人あまりの巡礼団を含む300人近い信者が集まり、30人の司祭団とともに新司祭誕生の瞬間に立ち会い、喜びを分かち合った。

受叙者

この日叙階された李秉徳(イ・ビョンドク)さんは、1975年1月5日生まれの42歳。家族は母・金正烈(キム・ジョンヨル)さんと、姉2人。そんな李秉徳さんは、富川北高校卒業後、忠南大学に進学、そこで社会体育を専攻した。特技はラグビー。大学卒業後は2年間の兵役に就き、その後、社会人として働く経験を積んだ。そして2006年、イエス聖心宣教師修道会に入会し2年後に仁川カトリック神学大学へ入学した。司祭職への召命を感じていた



郡山司教から接手を受ける受階者

李秉徳さんだったが、韓国のカトリック教会では年齢制限のため司祭職への道が閉ざされていたため、先に鹿兒島教区の神学生として迎え入れられ、すでに教区司祭として働いている末診旭神父、鄭法鐘神父(2013年叙階)、朴鎮亮神父(2015年叙階)、朴昶奎神父(2016年叙階)を追うように2012年、鹿兒島教区の神学生として受け入れられ、教区神学生として仁川カトリック神学大学に籍を置いた。助祭に上げられたのは今年の1月6日、仁川教区であった叙階式

叙階の儀

鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂であった司祭叙階ミサは、午前10時の開始。集まった信者たちは約300人。その中には、受階者の親族はもちろんのこと、出身教会、後援会、神学院関係者など50人の韓国から駆け付けた人たちの姿があった。

第一朗読(イザヤ書)の朗読は韓国語で、福音は日本語で朗読され、この日の通訳はコンベンツアル会韓国管区司祭で、サバティカルの期間中、古田町教会で司牧に協力している金熙一(キン・ヒイル)神父が務めた。

福音朗読後の説教で司教は、李秉徳さんを神にささげてくれた家族と親族、また養成にあたった仁川カトリック神学院関係者、また神学生に精神的・物質的な協力をしてくれた韓国の後援会に感謝の言葉を述べた。その上で、司教はキリストと弟子たちの関係を例に挙げ、「司祭がキリストの弟子であるなら、キリストと弟子のような関係が求

められる。派遣される場所で困難なことはあるだろうが、ブドウの樹の例えにあるように、キリストに繋がっていればいざれ実を結ぶことができる。あなたが叙階の記念カードに刻んだ言葉『星のように輝き』のように司祭として輝くために、苦しみの時には十字架の上のキリストと語り合い、繋がってほしい。そんな生き方が信徒との信頼を築いていく」と受階者にメッセージを送った。

その後の叙階の儀では、

講演と記念ミサに交流会

今年のシドゥッチ屋久島上陸記念祭

1708年シドゥッチパンニ・バチスタ・シドゥッチ神父が日本での宣教のために密かに上陸した屋久島、ここでは毎年、地元と教会が協力し「シドゥッチ神父屋久島上陸記念祭」を開催し、神父の偉業を称えている。

今年も種子島教会(栃尾泰英神父主任司祭)の巡回・屋久島教会では、同記念祭を実施し、多くの人が出席してくれるよう訴えている。

今年の記念祭開催は11月23日(木)に例年同様、屋久島町小島の「神父シドゥッチ上陸記念碑」前で開催される。スケジュールは次の通り。



司教の隣でミサを進める新司祭

教団のよい協力者となり、司祭団の一員として司祭の役目を果たすことなど、司教と叙階される者の約束を交わした。その後は諸聖人の連歌が歌われ、その間、伏臥していた受階者は、接手と叙階の祈りによって司祭の聖位に上げられた。

叙階されたばかりの李秉徳神父は、司祭の祭服を身にまとって司教の隣に進み出て、手に油を塗られた。その後は、新司祭の家族によって運ばれたパテナとカリスを受け取り、司教の隣でミサを進めていった。

ミサの終わりの祝賀式では、まず司祭団を代表して、韓国人神学生の教区での受け入れのきっかけを作った貴島丈弥神父が、信徒を代表してザビエル教会信徒総代の桜井真さんが祝辞を述べた。貴島神父は「私が皆さんのきつか

チ祭に関する問い合わせは、栃尾神父まで(☎09977②992)。

「短信」

▼終身助祭候補者認定式
10月1日(日)川内教会では認定式があり、同教会信徒のパウロ小島芳武さん(70歳)が終身助祭候補に認定された。また小島さんは11月3日の「福者レオ祭」の中で朗読奉仕者に選任される。

▼カトリック看護協会
鹿兒島支部長が松村精子さんから澤ヤエ子修道女(レデンブートル宣教女子会)に交代した。

教区人事

▼G・ティエン神父(小宿教会主任)は10月8日付、現職のまま聖心教会

けになったが、すべては神の計画。これからは働く先で子供からは素直に愛する心と謝る心を、お年寄りからは信仰の規範を学んでほしい。また病人たちからは一緒にいるキリストを、苦しんでいる人からは一緒に苦しんでいるキリストを見つけて欲しい」とメッセージを送った。

式典の終わりに挨拶した新司祭は、「今日の喜びを亡くなった父にもささげたい」と述べた後、今後の司祭としての生き方に、「報告、連絡、相談をまめにし、皆とコミュニケーションを取り、悲しいことがあっても感情を抑えて笑顔と絶やさぬ司祭でいたい」と抱負を語った。

ミサ後は、一階のホールと中庭で祝賀会があり、韓国の歌や英語の歌、そして奄美大島の踊りも披露される賑やかで楽しいひと時となった。

主任司祭
▼李秉徳神父(新司祭)は、9月23日付、聖心教会及び小宿教会助任司祭

▼永山幸弘神父(聖心教会主任)は10月8日付、療養のため司教館へ。

修道会便り

▼聖心の布教師妹会は、10月31日付で、徳之島修道院を閉院。以下はお別れの言葉。「出水・阿久根・小宿(奄美)・和泊・そして57年にわたり徳之島の宣教に協力してまいりましたが、修道院を閉院することになりました。皆様のお祈り、支え、励ましに心から感謝いたします。ありがとうございました」

▼コンベンツアル会は、笠利修道院、古仁屋修道院を閉鎖した。

「絶えざる御助けの聖母」のイコン 拝受150年記念にあたって

カトリック谷山教会主任司祭
トマス 頭島 光



レデンプートル会は1866年、教皇庁から大きなお恵みをいただきました。それは「絶えざる御助けの聖母」のイコンです。そもそも、イコンとは15世紀のビザンティン文化の代表的美術ですが、東方正教会ではイコンそのものを礼拝するのではなく、それを通してそこに映し出されている原像に祈るのです。十字架像のキリストにおいても、その意味は同じで、私たちは十字架を見ながら、キリストの現存を感じ取り祈るのです。コンピュータでアイコンという言葉をよく耳にしますが、それはそこをクリックするとアプリが起動し作業に入るものです。まさにアイコンの語源がアイコンなのです。

原像を思い起こすことになりません。この聖画の特徴的なひとつはマリアの手にあります。その指先の向こう側に見えているのは十字架です。天使も見えています。が、その手には釘が見えます。このように、イコンの前で祈るだけで、キリストの苦しみ、その復活の栄光をも黙想できるのです。「絶えざる御助けのマリア」は、救い主キリストへと私たちを導くだけでなく、人は祈ること苦しみ、人を祈る力と勇気が与えられることもまた、この絵を通して教えられるのです。

実際、このイコン、ローマにおいて、とても有名な聖画であり、多くの信者たちには知られていました。「絶えざる御助けの聖母」こそ「奇跡のイコン」なのです。このイコンは、もともクレタ島の聖堂に飾られていたもので、その時から「奇跡のイコン」と呼ばれ崇敬されてきました。ところが、ある時、一人のベネチア商人によって聖画は盗み出され、ローマに持ち去られたのです。その時、舟は難破寸前でした。しかし、船員たちの必死の祈りによって、船は遭難することなく奇跡的にローマに到着したのです。その後、商人は重い病に倒れ、命の危機に瀕しました。その時、彼は一人の友人に「実は『絶えざる御助けの聖母のイコン』は自分が盗み出したもの」と打ち明けたのです。「どうか、自分の持ち物の中からそのイコンを見付け出してほしい、そしてこの聖画が皆に祈られ、主の栄光に満ち溢れるように、どこかの教会に掲げてほしい」と願ったのです。

のにしてしまったのです。そうこうするうち、ある時、聖母はその6歳の娘の前に現れ「私を世に出さない」と言われたのです。こうして「絶えざる御助けの聖母」は1499年から、聖マタイ教会の聖堂に飾られることとなり、1798年、フランス革命が起こるまで、約3世紀に渡って崇敬されたのです。

ところが、この革命の嵐の中にフランス軍はローマにまで攻め入り、教会を破壊し始めたのです。当時、アウグティヌス会の修道士がこの難から「絶えざるイコン」を救い出し、しばらく自分たちの修道院聖堂に隠し、静かに崇敬していました。それから長い年月を経て、1863年、破壊された聖マタイ教会の跡地には新たにレデンプートル会の創立者、聖アルフォンソの教会が建てられました。これを機に、時の教皇ピオ9世は、聖画はアルフォンソ教会に飾られるのが最もふさわしいとし、レデンプートル会に、このイコンの素晴らしさを全世界に広め、聖母マリアへの信心を再興するようにと託されたのです。

パードレピオの集い

- (1)許しの秘跡 (2)聖体礼拝
- (3)ミサ (4)癒しの祈り
- ・ザビエル教会 11月22日(水) 12時30分
- ・聖心教会 11月23日(木) 13時

このようにして、今、日本に「奇跡のイコン」『絶えざる御助けの聖母』の複製聖画12枚のうち一枚が逆巡礼で回って来ているのです。昨年6月、レデンプートル会の聖画150周年拝受記念祭が、盛大にローマ本部にて祝われ、その一枚がローマからタイ、フィリピン、インドネシアとレデンプートル会士たちの手によって巡回し、運ばれてきたというわけです。今年の8月18日、韓国から崎へと上陸し、鹿児島、徳之島と巡回。9月18日から東京、茅野、諏訪へと運ばれ、多くの信者たちが訪問しては祈りが捧げられています。皆様も感謝の心をもつて、お祈りください。(レデンプートル会司祭)

友人はこれを彼の荷物の中から見付けだし、妻に見せると、彼女はすぐにこれを気に入って、自分の部屋に入れてしまい、自分のも

絶えざる御助けの聖母よ、いつもしみのイコンよ、わたしたちが困難に出会う時、イエスの御受難を見つめられたように、あわれみの目を注ぎ、御父の愛へと導いて下さい。聖母よ、あなたをさらに良く知り、福音がもたらす喜び、美しさ、善を、助け知らせることができるよう、助けてください。わたしたちの心を開いてください。希望を失い泣いている人が、あなたのもとに来て信じることができますように。

教えてください、心の中でみことばを思い巡らすことを、あなたの子、あがない主がなさったことを、御子がわたしたちに望んでおられることを、信仰の偉大な光をもって、わたしたちの道を照らし、あなたと一緒に歩むことができるよう、助けてください。聖母よ、こうして、いつか、あなたとともに、御父のみ顔を仰ぎ見ることができそうです。栄光は父と子と聖霊に。初めのように今もいつも世々に。アーメン

カトリック通信講座

1972年開設以来、入門への第一歩として、また信者の学び直し、黙想の助けとして好評いただいております。

<全7講座>

- T001 キリスト教とは＝日本の宗教観に照らして学ぶキリスト教の概要。
- T002 聖書入門〔I〕＝四福音書を通してイエスの生涯をたどる。
- T003 キリスト教入門＝キリスト教の秘跡や信仰生活について学ぶ。
- T004 神・発見の手引＝人生、自然を通して神の呼び声に耳を傾ける。
- T005 聖書入門〔II〕＝使徒の働きとその手紙、黙示録について学ぶ。
- T006 幸せな結婚＝カトリックにおける結婚の意味や愛、幸福とは？
- T007 生きること・死ぬこと＝老いや命、旅立つ人に寄りそうケアにつ

て考える。

<受講料> (教材費・税込)
T001～T004 各4800円
T005～T007 各5300円

<お申込み>

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001～T007)をご記入のうえ、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。振替口座番号: 00170-2-84745
加入者名: オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座
Tel: 03-3322-7601
Fax: 03-3325-5322
詳細はホームページをご覧ください。

司祭叙階50周年(金祝) ミサ

竹山 昭神父・成相明人神父

12月3日(日) 14時 ザビエル記念聖堂

- ①金祝感謝ミサ (主聖堂)
- ②祝賀会 (ザビエル教会ホール)

黙想会(イエスとの関係)のご案内

日時: 12月15日(金) 18時～17日(日) 16時 場所: マリア山荘
指導: キップス神父 参加費: 15,000(宿泊・食事代含む)
※どなたでも参加できます。
※3日間の参加に都合のつかない方は、1日もしくは2日の参加も可能です。お問い合わせください。

申込先: 福沢智子 ☎090-2083-9223

諏訪勝郎神学生の「僕の長崎への道」

(14)

3月14日(月) 徳山―防府：約25km

午前7時、ミサ。朝食後、午前9時半ごろ、徳山教会を発つ。

国道347号線と時折、絡み合いながら西進。福川を過ぎ、夜市川に沿って歩むと、向こうに、山陽自動車道の高架が。コンクリートの巨大な構造物の威容に突然、恐怖を覚えた。

化け物じみている。山陽の、緑の山並みを背景に白く浮かび上がったそれは、威容と形容するも異様である。明石海峡大橋を仰いで思ったが、やはり人間のスケール感から度外れている。

このようなものが現代、僕たちのモノに依存しきつた生活を、社会を支えているのだから、僕たちの生活自体がもはや人間のスケール感、すなわち「人間らしさ」を失って当然だ。

朝食時の、中村神父との会話を思い出す。神父は、比叡山の千日回峰行に触れ、言った。「歩くことが生きることに、人間であることの証し。われわれは頭でつかちになりすぎて、歩くことを忘れてしまった」

別れ際、握手を交わしたときだ。「よい司祭になつてくたさい。いや、と言うより、歩く司祭になつてくたさい」

人間らしい生活から離れた司祭にはならぬように、どのところを聞いたように思ったのである。そう、信仰とは、そもそも生活だ。断言してもいい。これを失

って信仰などない。赤迫峠越え。きょう、最初の峠越え。戸田の集落を抜け、国道2号線へ。次いで、旧道に入り、椿峠を越える。峠から見た、富海の海景は美しかった。

富海本陣跡の門を過ぎ、山陽本線の鉄道を跨ぐ。次は浮野峠、と心構えつつ歩む。が、一向それらしい登り坂が現われない。鉄路に沿って、海を左に眺めつつ

長々と歩む。どうやらきょうも、道を誤つたらしい。結局、山越えでなく、鉄路に沿って山裾を廻り込んだ様子。そのまま西へ。

午後5時半、防府教会に着。小崎次郎神父が待っていてくれた。

3月15日(火) 防府―小郡：約20km

午前9時、防府教会を後に。ひたすら西進。佐渡川を渡る。佐野峠へ。峠は、山陽自動車道佐波川SAを迂回するようにめぐる。

そのまま旧道を歩く。国道と交わるところに長沢池。歩道の途切れるところでふたたび旧道へ。長閑な里山風景が広がる。

きょうは雲ひとつない快晴。しかし冬の気配配置なのだろう、風が滅法強く、寒い。

四辻を過ぎ、陶の集落に。「艦綱の森」の碑を見る。611年、大内氏の祖先、百済の皇子琳聖太子がここに上陸。この地の土がやきものによいと気づき、村人に陶器の作り方を教え

たという。古くから陶工の暮らす土地らしい。土いじりは、なにも轆轤をまわし、器物成形などを嗜みとするに及ばない。童心に帰って土と戯れること。これが愉快である。子ども時分の粘土遊びを思い

出そう。あの指の感触を。身体で記憶していることは、頭で記憶していることより生々しい。これがいま、あらゆる生活場面で乏しい。

昨晩の夕食時、小崎神父は言った。「イエズス会はエリート教育に熱心になりすぎた」

中学、高校、大学を職場としてきた神父。だが、いまは幼稚園の園長を兼ねる。「とつてもよい」と喜ぶ。



防府教会で

ロザリオ作りに挑戦

ラ・サール生の指導で谷山教会学校

10月14日(土)の谷山教会の教会学校では、今までにない取り組みが行われた。教会近くにあるラ・サール学園から宗教部活動の「ロザリオ会」が訪問してくれ、手編みのロザリオ作りを指導してくれたのだ。

手作りロザリオは、ロザリオ会が学内の文化祭やバザーで名物として行っている催しで、テグス糸に思い思いのカラフルなビーズを通してロザリオにするものだ。

この日、谷山教会とその他の教会から集まった8人の子どもたちも、たくさん並べられたビーズの中から

悦の笑み。「こうでなければならぬ、こうあらねばならない」というのがないのがない」。子どもたちが各々の興味にまかせ、のびのびと日々、いのちのエネルギを燃焼させて走り回るすがたに学ぶことは多いという。

思えば僕は、ずっとそんな感じであつたのである。天真爛漫、自由奔放と形容すれば聞こえはいいが、要するに子ども並みということだ。だから義務的に、権柄づくに、あるいはシステマティックに求められることをいまま嫌う。

一方、だから長崎まで歩こうなどと無邪気でもいられるのである。もちろん、これを大いに迷惑がる人たちのいることも僕は知っている。

きょうの宿は、イエズス会山口修道院。(続く)

自分に合った色を選び出し、中高生の指導によってオリジナルのロザリオを作製した。完成後には自分のロザリオで一連を唱え、それぞれの思いを聖母にささげた。

参加した神村舟人君(小6)は「際どいところもあつたが、楽しかった。親切なお兄さんたちが来てくれてよかった」と誇らしげにロザリオを握った。

また同教会のシスター下川は「たくさんのお兄さんたちが来て、熱心に教えてくれてよかった。子どもたちも喜んだと思う。ぜひ来年も来て欲しい」と

振り返った。この取り組みは、谷山教会所属信徒のラ・サール生で、昨年まで同教会学校のリーダーやロザリオ会の部長を務めていた橋本佑太朗さんの仲介で実現した。

橋本さんは常に次の世代の教会のことを視野に「若い世代のつながり」を意識した行動を次々と起こしてきた。今回の交流についても「ロザリオ会のメンバーがより世の中に出て行く人々であつて欲しい」と。このような接点を持って良かった」と語った。

なお、この手作りロザリオはラ・サール学園の文化祭やバザーでもできるようなつており、間近では11月26日のバザーで行われる。(谷山教会レポート)

今年5月から7週間にわたってザビエル教会で行われたセミナーを収録したものです。講師のマツケイ神父様(コロンバン会)の、聖霊の喜びに満ち溢れたお話は、み言葉からいただく愛の力で日々の生活、人間関係を生きるよう励ましてください。

DVD、CDとも各2000円、本は500円。詳しくは、小教区に配布されるチラシをご覧ください。



会と催し 11月

1日(水) 諸聖人

2日(木) 死者の日

3日(金) 平秀応修道士命日(1994年)

5日(日) 福者レオ祭・京泊教会跡地・11時40分

5日(日) 年間第31主日

7日(火) 死者のためのミサ・唐湊墓地・11時

7日(火) 大野和夫神父命日(2016年)

9日(木) ラテラン教会の献堂

9日(木) メニヒ神父命日(聖テヨドル)

10日(金) 柳本繁春神父命日(聖レオ1世教皇)

11日(土) ガブリエル神父命日(1978年)

11日(土) スピリチュアルケア1日研修会・教区本部・9時30分

12日(日) 年間第32主日

12日(日) スピリチュアルケア研修会オリエンテーション・教区本部・10時

17日(金) 神修神父命日(2014年)

19日(日) 年間第33主日

19日(日) 聖書週間・26日まで

20日(月) 司祭評議会・教区本部・14時

20日(月) 教区司祭会・教区本部・16時

21日(火) 三木巖神父命日(2000年)

21日(火) コンペンツス・教区本部・10時

23日(木) 教区巡礼委員会・教区本部・19時

26日(日) シドゥッチ祭・屋久島教会・14時

26日(日) 王であるキリスト

27日(月) オリープの会・教区本部・14時

27日(月) カトリック幼稚園役員会・教区本部・15時

30日(木) 聖アンデレ使徒

祈りの意向
【祈祷の使徒会】
福音宣教 アジアのキリスト者たち
日本の教会 孤独死をなくすために

【DVD、CD、本の紹介】
聖霊による生活刷新セミナー

人と環境との関係について学習

鹿児島正平協が脱核部会と交流

9月18日(月)、教区本部で「カトリック正義と平和協議会脱核部会」と「鹿児島正平協」の交流会が開かれた。東京から光延一郎神父(脱核部会長)と昼間範子さん(事務局)、鹿児島からは6人の信徒と小川みさ子さん(鹿児島市議)が参加した。約3時間充実した意見交換と分かち合いをする事ができた。そこで学んだことを当日の資料の中から紹介する。

I・環境問題について
 ① 教皇フランシスコはどのように呼びかけておられるのか。
 「ラウダート・シ 共に暮らす家を大切に」の全体を貫く核心的な問い(160項)の中で「私たちの後に続く人々、また今後成長しつつある子どもたちのために、私たちは一体どのような世界を残したいのでしょうか?」この質問は、ただ環境に対してのみ問われているのではない。…なぜなら、この問いは総合的に(インテグラルに、全人的に)とらえるべき。①何のために、私たちはこの世に生まれてきたのだろうか、②なんのために働いたのか、③なぜ、この地球は私たちを必要としているのか。」(資料)

② 日本カトリック司教団からのメッセージ
 「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ13・34)と、すべての人に呼びかけています。この呼びかけは、人類共通の家である地球を将来にわたって守る責任と義務についても問いかけています。ではないでしょうか。
 「原子力発電の撤廃を」(より)

③ 環境問題についてのカトリック教会の基本的展望は、「神の像として作られた人間は、地とそこにあるすべてのものを治め、世界を正義と聖性のうちに支配し、また万物の創造主である神を認めて、人間自身と万物を神に關連つけるようにとの命令を受けた。こうして万物は人間に服従し、全地において神の名があがめられるのである」(現代世界憲章34)



II・原発について
 日本カトリック司教団メッセージ「わたしたちは福島原発事故からなにを学ばなければならなかったのか」「わたしたちは、何をなすべきなのか、わたしたち自身の生活をどのように見直し、誰と手を取って、どのように新しい未来を切り拓いていくべきか」この5年半の間何を学んだか

① 地球上ではほとんど起こらない核分裂を人工的に起こして取り出す核エネルギーは、桁違いに強大である。② それを安定させる技術(放射性廃棄物処理技術)を人類はまだ獲得していない。③ ひとたび事故が起これば、市民生活が根底から破壊され、環境被害は、国境も世代をも越えて広がる。④ 経済的発展こそが人類を幸福にするという思想が世界に魔力のように広がっており、それが原子力発電撤廃の前に立ちふさがっている。「原子力発電の撤廃を」

III・光延神父のカトリック教会への提言
 A、原発のある社会に生きる人々の間で対話と和解が可能となることをたえず祈ろう。

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 11月号

奄美大島に於けるカトリック迫害の歴史
 (昭和9)年5月、ローマ教皇使節パウロ・マレラ大司教は鹿児島を訪れ、霧島神宮や照国神社に参拝した。カトリックと神道が相入れるとは思えないが、当時、教会は「神社参拝は宗教と関係なく愛国心によるもの」との見解をとっていたので、なるべく摩擦を避けようとした。大日本帝国憲法でも「安寧秩序・臣民の義に背かない限り」という制限はあっても宗教の自由は認められていた。しかし、奄美大島のカトリック教会は、1932(昭和7)年の段階から陸軍の標的になっていた。陸軍の文書によると「敵」は、宣教師並びにカトリック信徒であった。熊本第六師団が主となり、奄美大島を超重点地域と位置付けていた。

1934(昭和9)年、12月2日、陸軍奄美大島要塞司令部参謀・角和善助少佐は、カトリック信者の多かつた三方村(現奄美市)大熊

で、地区有志や青年会幹部を集めて、カトリック教徒攻撃を宣言。11月10日、大熊の区長は集まった住民に「カトリック信者が居るばかりに村の平和が乱れている。非常時の今日、ぜひ背教することを司令官角和少佐の前で誓え。そうでなければ殺すぞ」という話をした。集められた大人たちは、四角に張られた縄張りの中に、信者とそうでない住民に分けて座らされ、「やめる者はこちへ出る。やめない者は残れ」と威され、何人かが出た。その後、信者への圧迫は次々と続き、聖書やロザリオ、十字架、ベールなど祈りの諸道具が回収された。カトリック信者墓地では木の十字架は切り取って焼かれ、

石の十字架はハンマーで叩き壊された。
 1934(昭和9)年12月12日、名瀬と大熊にいた最後の外国人神父が引き揚げて行き、既に10か所あった教会の主は皆いなくなつた。1935(昭和10)年、角和少佐が夜に瀬留の住民を教会が経営する幼稚園に集め、大熊と同じような方法で「邪教は棄てる」と言った。一か月前、角和の勧めるままに良かれと思ひ、外国人神父の引き揚げに役買ったつもりだった瀬留集落のリーダー格であった郡山為業氏は憤り、激論となつた。司令官に威喝され、司令部参謀になだめられ、友人でもあった区長

らに説得され、やむなく転宗届に押す印鑑を渡した。区長たちも泣いていた。郡山氏も泣いた。既に瀬留の信者はみんな転宗してしまつた。その後、角和少佐が訪ねてきて「郡山さん苦しかったね。私も苦しかった。あなたも苦しかった」と手を握ってポロポロ泣いた。「迫害していた人も泣いてやった人が多かつたのですよ」と郡山氏は語つた。(指宿教会・永井勲・続く)参考・南日本新聞「島んちゅ受難」

定例会の案内
 (毎月第二土曜日)
 日時・11月18日(土) 13時~15時 場所・教区本部

とそ子ども食堂

ご寄付は下記の口座にお願いします。

☆ゆうちょ銀行：とそ子ども食堂
 店名 七八八 店番 788
 普通預金 口座番号 3225173

☆鹿児島銀行：とそ子ども食堂
 県庁支店 普通預金 3019349

短文

秋晴れのカタドラルの栄光叙階式ひれ伏すしもべ連袴で包む
 庭先の秋の草花描きつつコントラストのみ業に触るる

鹿児島純心 川上 和

俳句

始良教会 川口 節子
 つぐのう日いつ与え給うや夏過ぎし

川柳

つぐのいを果して行く道老いの日々
 つぐのいを愛と受け入る祝敬老日

秋風やロザリオ運ぶバラにして
 带状に稔る棚田を紅に染め

鹿児島純心 川上 和

ザビエル教会 壮年信徒
 何してもさげすばぬクセに人裁く
 気持ちだけまだまだやれる老働者
 年賀状出さずにいたら他界説

+KABAYAN SEKSYON+
Piling Pagtatangi sa mga Dukha
 Ang repormang pangliturhiya ng Vaticano II ay nagpanumbalik sa lumang kaugalian ng pagaalay ng mga handog ng taumbayan na dumadalo sa Misa; pinahihintulutan nito "ang prusisyon ng mga mananampalataya kung saan ang mga handog para sa mga dukha ay iniaalay kasama ang tinapay at ala." Naglalayong ipakita ng gawaing ito ang mahigpit na kaugnayan ng Eukaristiya at ang misyon ng Simbahan para tumulong sa mga nangangailangan.

Sadyang makabagbag-damdamin ang mga salita ni San Juan Crisostomo na nagbibigay-diin sa ugnayang Eukaristiya-Mga Dukha: "Ibig ba ninyong parangalan ang katawan ni Kristo? Huwag ninyo siyang balewalain kung siya ay walang saplot. Huwag ninyo siyang parangalan sa templo habang nararamtan siya ng seda, at hindi siya papansinin sa labas habang giniginaw at hindi maayos ang bihis.

Siya na nagsabing: "Ito aking katawan" ay siya ring nagsabi na: "Nakita ninyo akong nagugutom at hindi ninyo ako pinakain," at "Anumang ginawa ninyo sa pinakahamak sa aking mga kapatid ay ginawa niyo na rin sa akin..."

Ano ang silbi kung ang hapag ng Eukaristiya ay nag-uumpaw sa mga gintong kalis habang ang inyong kapatid ay namamatay sa gutom?

Magsimula kayo sa pagtugon sa kanyang pagkagutom at kung ano man ang lumabis maaari ninyo nang palamutian ang altar."

Sadya ngang layon ng Eukaristiya na dagdagan, sa halip na bawasan, an gating responsibilidad sa mga nangangailangan sa daigdig ngayon.

Ang pagtulong sa mga habag na punong-puno ng saya at pagmamahal, ay nagpapakita na nakikilala nila si Kristo sa katauhan ng mga dukha. At ito rin ang bunga ng malalim na pananampalataya sa Diyos na buhay diyen sa Bugtong na Anak na si Jesukristo, na sila ay nabubuhay magpasawalang hanggan. At sa tulong ng Espiritu Santo, mas nagiging metatag ang pananampalataya, pagr-asa at pag-ibig.

Katesismo sa Taon ng Habag (Fr. Dino Orolfo)